

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017 年 5 月実績 速報版(パネル 270)

4 月実績 確報版(パネル 270)

(2017 年 6 月 21 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年6月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年5月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	89,553,318	100.0%	100.6%	99.4%
食品合計	80,256,606	89.6%	100.8%	99.5%
生鮮3部門合計	30,253,286	33.8%	99.8%	98.3%
青果	12,384,741	13.8%	98.6%	97.2%
水産	7,660,798	8.6%	98.0%	96.5%
畜産	10,207,747	11.4%	102.9%	101.0%
惣菜	9,028,961	10.1%	102.3%	100.3%
日配	17,432,535	19.5%	100.9%	99.6%
一般食品	23,541,824	26.3%	101.6%	100.6%
非食品	6,860,541	7.7%	98.5%	98.2%
その他	2,436,220	2.7%	99.1%	98.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	12,526,866	43	100.9%	99.2%
関東地方	33,043,517	73	100.7%	99.9%
中部地方	11,117,847	53	99.2%	97.9%
近畿地方	19,261,750	44	101.5%	100.3%
中国・四国地方	8,966,405	34	99.3%	97.1%
九州・沖縄地方	4,636,934	23	99.3%	99.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	797,722	48	97.1%	97.3%
4～10店舗	3,732,289	67	99.5%	98.1%
11～25店舗	10,728,514	67	99.4%	98.8%
26～50店舗	16,553,427	45	100.4%	98.5%
51店舗以上	57,741,366	43	100.9%	99.8%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	87,346,163
総店舗数（店舗）	7,771	店舗平均月商（万円）	11,524
総売場面積（㎡）	12,826,703	売場1㎡あたり売上高（万円）	7.0

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年6月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年4月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,385,511	100.0%	102.3%	100.9%
食品合計	78,363,569	89.7%	102.8%	101.2%
生鮮3部門合計	29,795,295	34.1%	102.5%	100.8%
青果	12,177,198	13.9%	102.2%	100.6%
水産	7,737,493	8.9%	101.1%	99.4%
畜産	9,880,604	11.3%	104.2%	102.2%
惣菜	8,762,328	10.0%	103.9%	101.9%
日配	16,805,031	19.2%	102.4%	100.9%
一般食品	23,000,916	26.3%	102.9%	101.7%
非食品	6,486,659	7.4%	99.9%	99.8%
その他	2,535,332	2.9%	98.0%	98.2%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,153,247	43	102.6%	101.5%
関東地方	32,318,321	73	103.3%	102.6%
中部地方	10,797,243	53	102.4%	99.6%
近畿地方	18,871,728	44	100.9%	99.7%
中国・四国地方	8,684,685	34	102.1%	99.5%
九州・沖縄地方	4,560,286	23	100.5%	100.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	752,329	47	98.1%	98.1%
4～10店舗	3,670,967	68	101.1%	100.3%
11～25店舗	9,913,806	65	102.2%	100.2%
26～50店舗	16,701,926	47	102.0%	100.5%
51店舗以上	56,346,482	43	102.5%	101.3%

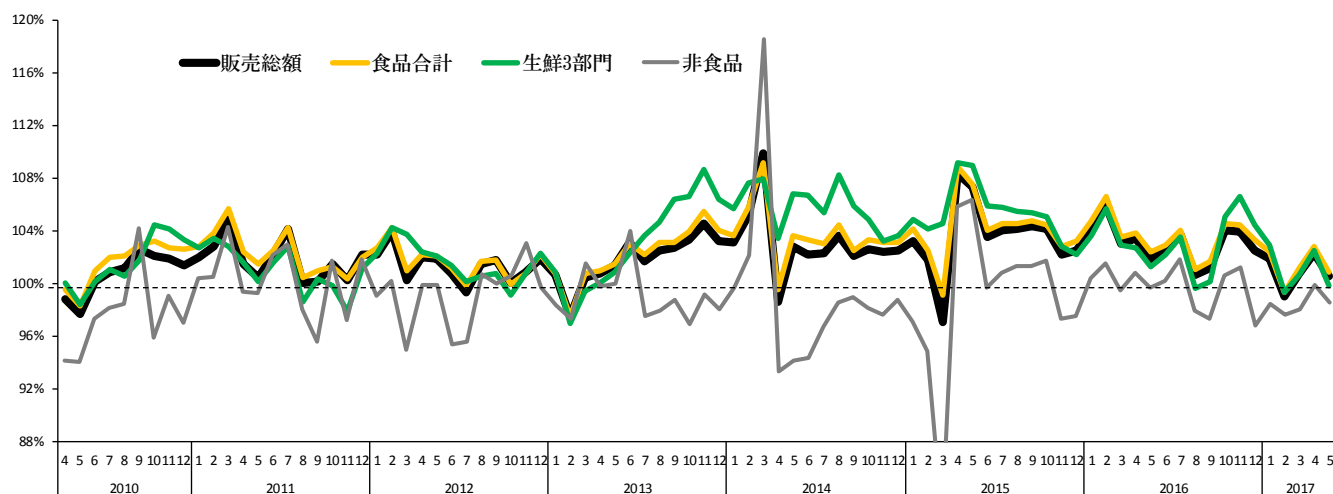
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,026,705
総店舗数 (店舗)	7,774	店舗平均月商 (万円)	11,241
総売場面積 (㎡)	12,822,327	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.8

※売上高は税抜金額

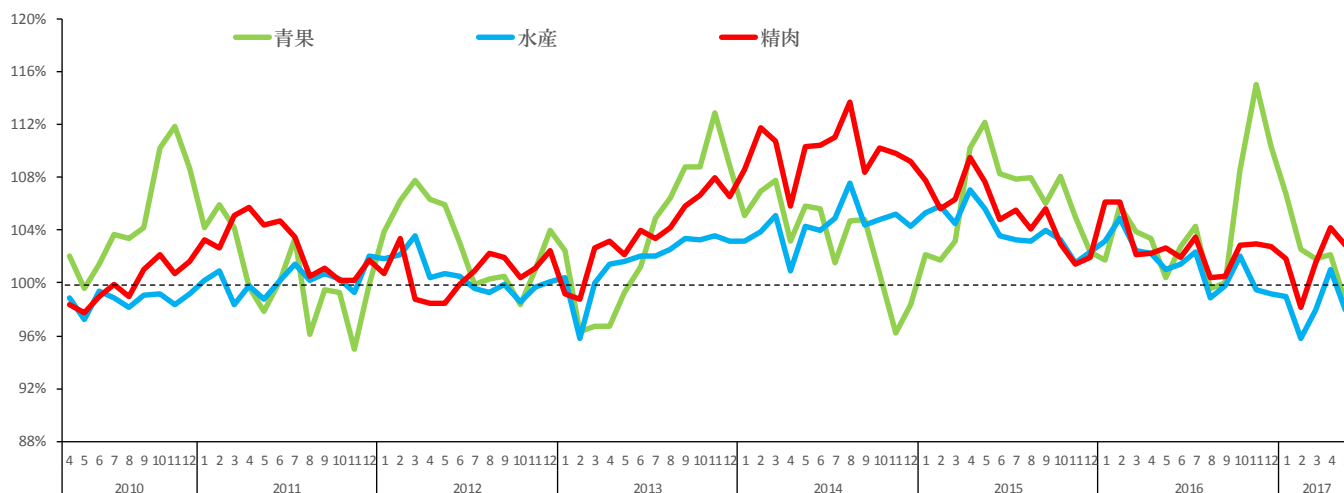
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2017年5月(前年同月比／全店ベース)

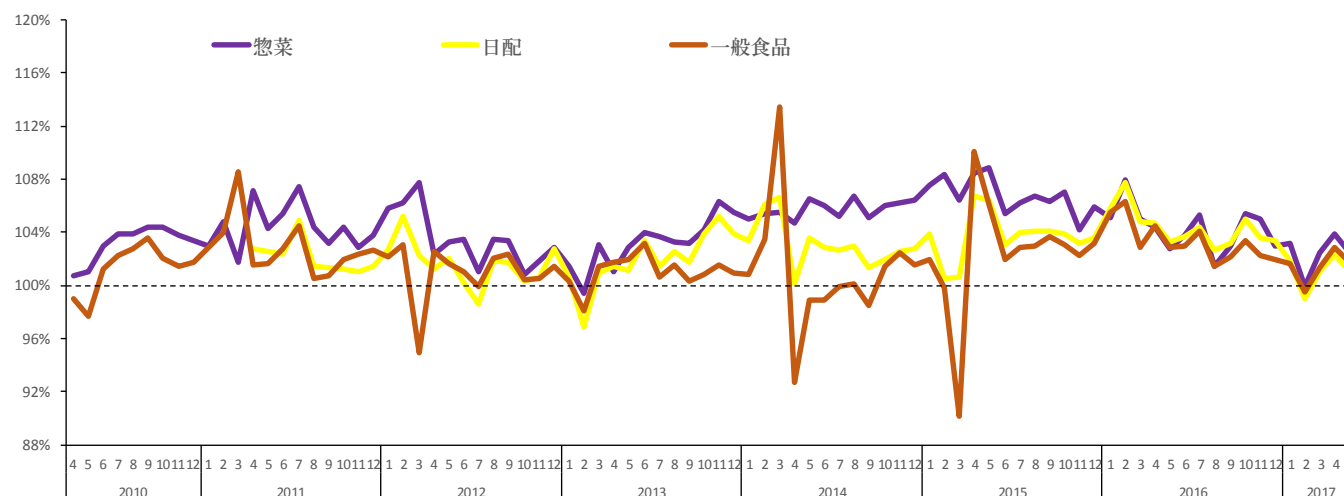
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年4月までは確報版による前年同月比、2017年5月は速報版による前年同月比

※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」、「非食品」に「その他」を含む

2017年5月エリア別気候状況

1. 月の気温：北・東・西日本で気温がかなり高かった

上旬：北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。沖縄・奄美は平年並だった。

中旬：東・西日本、沖縄・奄美で高く、北日本で平年並だった。

下旬：東日本、沖縄・奄美で低く、北・西日本で平年並だった。

2016年5月との比較：上旬関東や北陸で前年より低く、中旬以降は北海道で低くなった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2017年5月			2016年5月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	2.4	0.8	1.8	1.6	2.6	3.4	0.8	-1.8	-1.6
東北地方	1.2	0.9	2.7	1.4	1.5	3.2	-0.2	-0.6	-0.5
関東甲信地方	0.8	1.2	2.6	2.0	1.5	2.1	-1.2	-0.3	0.5
北陸地方	0.4	1.4	2.6	2.1	1.2	2.3	-1.7	0.2	0.3
東海地方	0.8	1.1	1.8	1.1	1.2	2.0	-0.3	-0.1	-0.2
近畿地方	1.0	1.2	1.8	1.0	1.3	2.2	0.0	-0.1	-0.4
中国地方	1.5	1.4	1.7	1.1	0.6	2.0	0.4	0.8	-0.3
四国地方	1.0	0.6	1.1	1.0	1.0	1.7	0.0	-0.4	-0.6
九州北部	1.1	0.7	1.3	1.1	0.7	2.0	0.0	0.0	-0.7
九州南部・奄美地方	0.2	-0.3	0.3	1.0	0.4	1.9	-0.8	-0.7	-1.6

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

2. 月の日照時間：東日本日本海側と西日本で日照時間がかなり多かった

上旬：北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側、東日本、沖縄・奄美で多かった。

中旬：西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。

下旬：西日本でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。一方、北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なく、北・東日本日本海側で平年並だった。

2016年5月との比較：上旬は東北より北でやや長く、中旬は北日本を中心にやや低く、下旬は西日本を中心に長くなった。

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2017年5月			2016年5月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	150	101	77	102	139	135	48	-38	-58
東北地方	131	112	101	78	158	115	53	-46	-14
関東甲信地方	120	112	121	107	148	106	13	-36	15
北陸地方	113	139	113	92	155	106	21	-16	7
東海地方	114	122	120	104	142	97	10	-20	23
近畿地方	109	138	127	96	161	97	13	-23	30
中国地方	109	125	123	93	146	93	16	-21	30
四国地方	96	139	134	95	148	93	1	-9	41
九州北部	98	147	141	91	142	99	7	5	42
九州南部・奄美地方	87	134	132	95	122	79	-8	12	53

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

3. 月の降水量：東日本と西日本日本海側で降水量がかなり少なかった

上旬：北日本でかなり少なく、東・西日本で少なかった。

中旬：北・東日本日本海側で少なかった。一方、沖縄・奄美で多く、北・東日本太平洋側と西日本で平年並だった。

下旬：西日本日本海側でかなり少なく、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。北日本と東日本日本海側で平年並だった。

2016年5月との比較：上旬は全国的にかなり少なく、中旬は西日本で多く、下旬は西日本で少なくなった。

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2017年5月			2016年5月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	19	80	107	56	96	81	-37	-16	26
東北地方	24	114	82	105	95	65	-81	19	17
関東甲信地方	29	83	61	94	81	61	-65	2	0
北陸地方	53	33	58	62	63	98	-9	-30	-40
東海地方	36	57	55	124	100	65	-88	-43	-10
近畿地方	23	59	67	101	99	67	-78	-40	0
中国地方	37	24	33	105	67	57	-68	-43	-24
四国地方	45	97	62	135	61	139	-90	36	-77
九州北部	44	101	14	215	71	105	-171	30	-91
九州南部・奄美地方	85	160	25	264	64	98	-179	96	-73

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

気象庁ホームページ・報道発表資料「5月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2017 年 6 月調査結果（5 月実績）
（2017 年 6 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
 - ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DIは共に悪化し、見通し判断は昨年9月以来の低水準に

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-2.0の44.3、見通し判断は前月から-2.6の41.2となり、どちらも前月から悪化した。

経営動向調査では、売上高DIが-10.4と二桁のマイナスとなったほか、収益DIは-8.6と低下した。客単価DIが-3.4（前月比-5.2）とマイナスに低下したほか、来客数DIも-8.9と低迷していることが影響している。客単価の低下は、青果や輸入肉の仕入価格の低下が生鮮品仕入価格を1.7（前月比-2.5）まで下押ししたことが影響している。

カテゴリー動向調査は、日曜日が1日少ない影響を受け、すべてのDIがマイナスとなった。なかでも野菜を中心に単価が下落した青果DIや寄生虫アニサキスの関する報道の影響で水産DI、他業態との競合が厳しい非食品DIが二桁のマイナスとなっている。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断共に悪化しており、特に見通し判断の低下傾向が顕著になっている。周辺地域景況感は、直近の動きは、横ばいでの推移となっていることを考えると、全般的消費マインドが悪化しているというよりも、スーパーマーケットの景況感が悪化している可能性が高い。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

曜日めぐりの影響があったとはいえ、販売価格、客単価ともにマイナスの厳しい状況が続いている。畜産でも輸入牛の割安感が目立ち始めるなど、客単価の低下圧力が強まっている。見通し判断への慎重な姿勢は、このような見通しが影響しているとみられる。客単価維持、上昇への対策が急務である状況に変わりなく、今後の取組みが期待される。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 44.3 （-2.0） 前月：46.3	消費者購買意欲DI 当月： 43.8 （-1.5） 前月：45.3	周辺地域 競合状況DI 当月： 41.5 （-0.6） 前月：42.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 45.8 （-1.0） 前月：46.8
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 41.2 （-2.6） 前月：43.8	消費者購買意欲DI 当月： 42.7 （-1.3） 前月：44.0	周辺地域 競合状況DI 当月： 39.4 （-1.1） 前月：40.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 45.0 （-1.3） 前月：46.3
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-10.4 (-5.0) 前月：-5.4	客単価DI 当月：-3.4 (-5.2) 前月：1.8	来客数DI 当月：-8.9 (+1.3) 前月：-10.2	
収益DI 当月：-8.6 (-0.7) 前月：-7.9	販売価格DI 当月：-0.4 (-0.8) 前月：0.4	生鮮品仕入原価DI 当月：1.7 (-2.5) 前月：4.2	食品仕入原価DI 当月：3.4 (+0.8) 前月：2.6

カテゴリー動向

青果DI 当月：-11.9 (-9.9) 前月：-2.0	水産DI 当月：-18.0 (-9.7) 前月：-8.3	畜産DI 当月：-0.3 (+2.4) 前月：-2.7	
惣菜DI 当月：-0.7 (-3.3) 前月：2.6	日配DI 当月：-9.2 (-5.1) 前月：-4.1	一般食品DI 当月：-5.1 (-0.6) 前月：-4.5	非食品DI 当月：-11.7 (-3.2) 前月：-8.5

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

6月調査（5月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高 DI

当月下落し二桁のマイナスを記録するなど、下降トレンドが続く

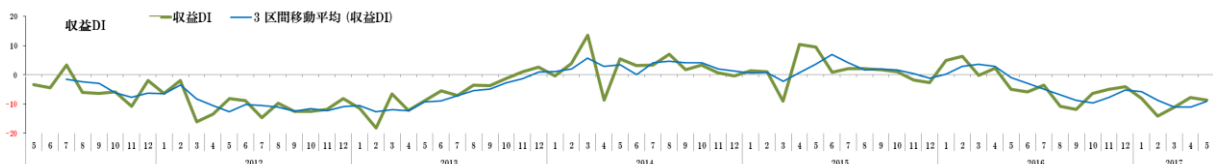
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	6.6	35.7	31.9	24.4	1.4	-5.4
売上高（当月）	8.2	45.4	26.8	19.1	0.5	-10.4



2. 収益 DI

当月わずかに下落し、マイナスでの推移が続く

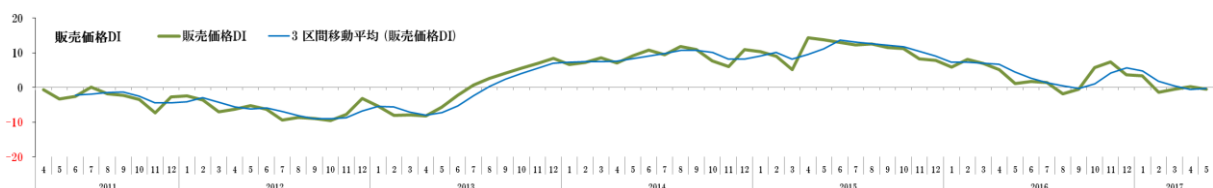
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	9.7	34.8	34.8	18.8	1.9	-7.9
収益（当月）	8.9	37.2	35.6	16.2	2.1	-8.6



3. 販売価格 DI

ゼロ付近で横ばい推移が続く

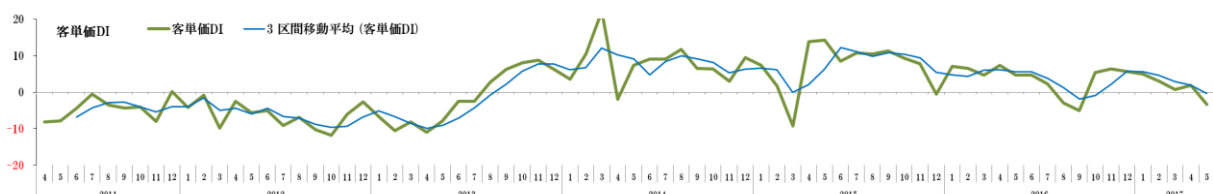
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.9	13.7	68.2	17.1	0.0	0.4
販売価格（当月）	0.0	15.0	71.5	13.5	0.0	-0.4



4. 客単価 DI

当月再びマイナス圏に下落し、下降傾向が続く

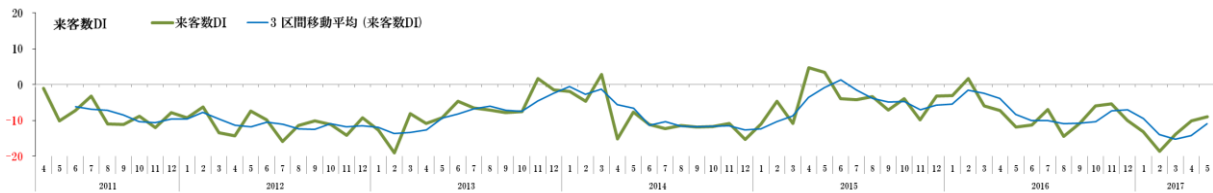
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.5	20.4	50.7	28.4	0.0	1.8
客単価（当月）	0.5	31.4	49.0	19.1	0.0	-3.4



5. 来客数 DI

2ヵ月連続で上昇するも、マイナス圏での推移が続く

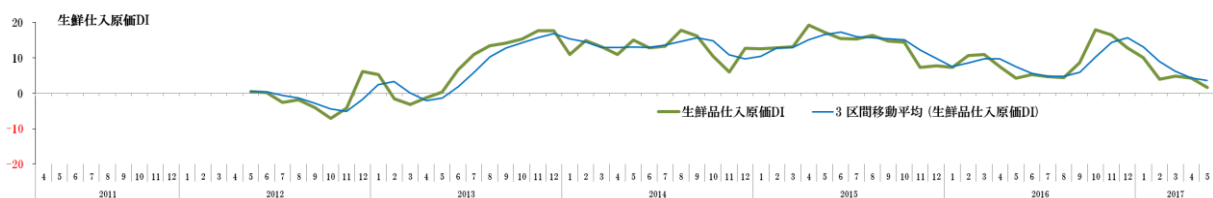
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	7.6	39.8	39.3	12.3	0.9	-10.2
来客数 (当月)	6.7	40.4	35.2	17.1	0.5	-8.9



6. 生鮮仕入原価 DI

わずかなプラス圏で横ばい推移が続く

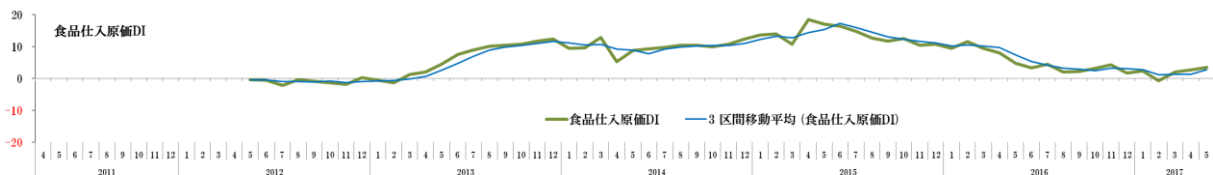
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.4	7.3	59.2	29.1	1.0	4.2
生鮮仕入原価 (当月)	2.6	11.6	62.4	22.8	0.5	1.7



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラス圏で横ばい推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.0	8.5	69.3	19.6	0.5	2.0
食品仕入原価 (当月)	1.2	7.1	69.2	21.9	0.6	3.4

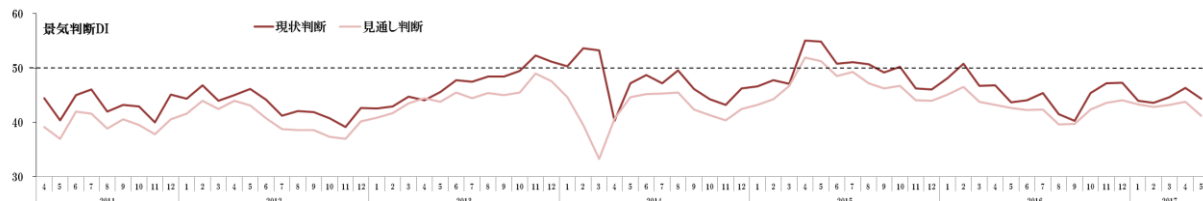


Ⅱ．景況感調査（2011年4月～／周辺地域景気判断のみ2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断ともやや悪化をみせ、頭の重い状況

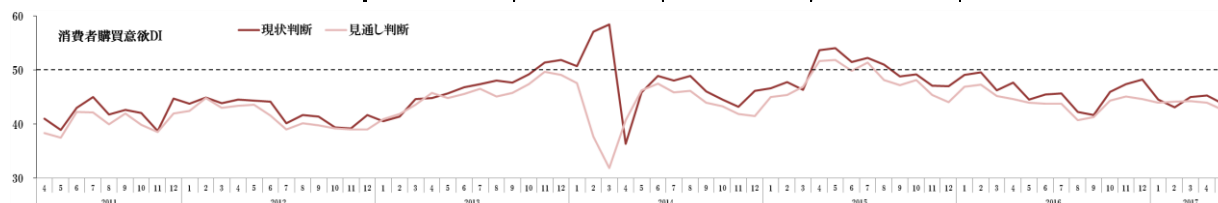
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	0.9	22.6	66.5	9.9	0.0	46.3
【現状】景気判断（当月）	0.5	29.4	62.4	7.7	0.0	44.3
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	1.4	27.1	66.2	5.2	0.0	43.8
【見通し】景気判断（当月）	2.6	34.0	59.3	4.1	0.0	41.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断ともやや悪化をみせ、ゆるやかな下降トレンド

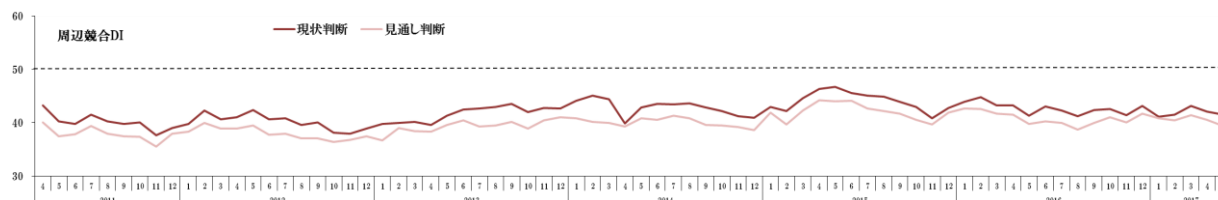
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.9	23.6	68.9	6.6	0.0	45.3
【現状】購買意欲（当月）	0.0	30.9	62.9	6.2	0.0	43.8
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	1.4	24.2	71.6	2.8	0.0	44.0
【見通し】購買意欲（当月）	1.0	30.9	64.4	3.6	0.0	42.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に弱含みで変化の基調ない

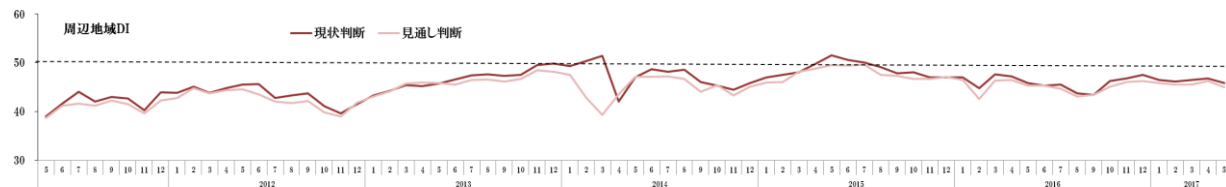
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	3.8	28.3	64.2	3.3	0.5	42.1
【現状】競合状況（当月）	4.1	29.9	61.9	4.1	0.0	41.5
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	5.7	28.4	64.0	1.9	0.0	40.5
【見通し】競合状況（当月）	6.2	31.4	60.8	1.5	0.0	39.4



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

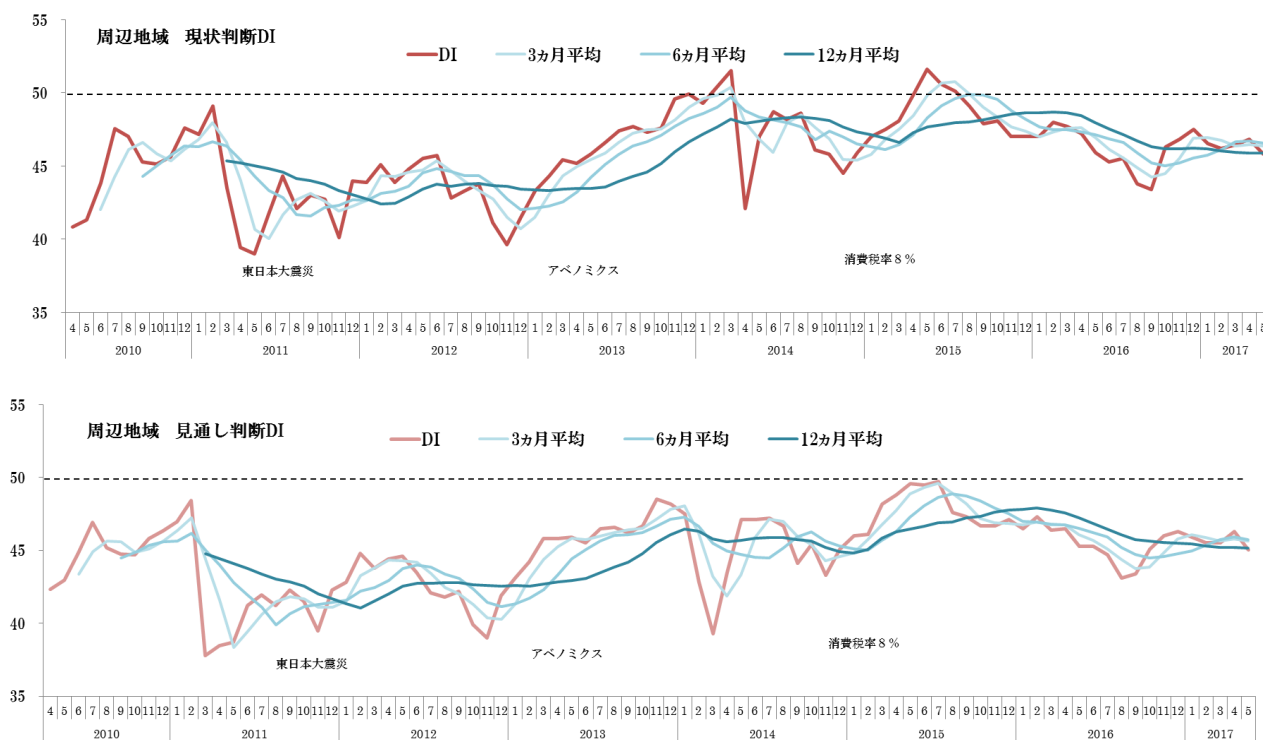
現状判断、見通し判断共に小幅に悪化も方向感がない

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	13.7	83.9	1.9	0.0	46.8
【現状】地域景気 (当月)	0.0	18.2	80.2	1.6	0.0	45.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	15.2	82.9	1.4	0.0	46.3
【見通し】地域景気 (当月)	0.5	21.5	75.4	2.6	0.0	45.0



長期傾向 (2010年4月～)

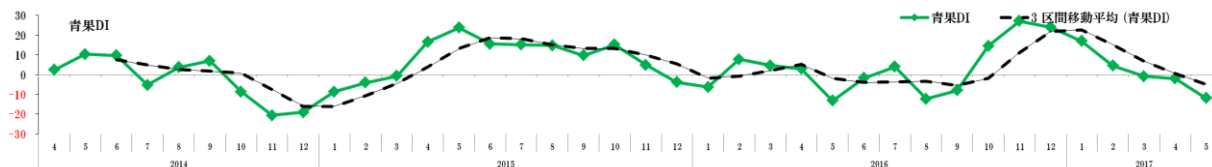
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、10月は一転して大きく改善し、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り、方向感なく横ばい推移が続いている。直近5月は小幅に悪化した、12ヵ月移動線付近で下げ止まっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-11.9（不調）

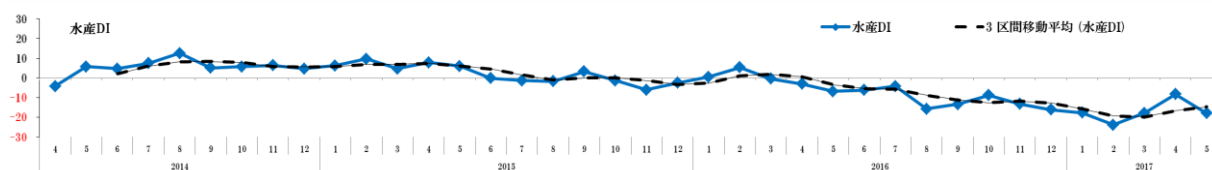
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	5.9	32.2	29.2	29.2	3.5	-2.0
青果（当月）	11.4	41.6	30.8	15.7	0.5	-11.9



野菜類は、相場が低下傾向にあり単価が下落傾向にあるなか、日曜日が少ない影響で販売数量も伸び悩み不調となった。青梅やラッキョウなどは入荷が前年より出荷時期が遅くなった影響が出たほか、アスパラガスは、北海道産の不作により相場が高騰しており不調となった。その他では西瓜やメロンが不振にあげられている。比較的相場が安定している果物については、カットフルーツやいちごが好調にあげられている。

2. 水産DI：-18.0（不調）

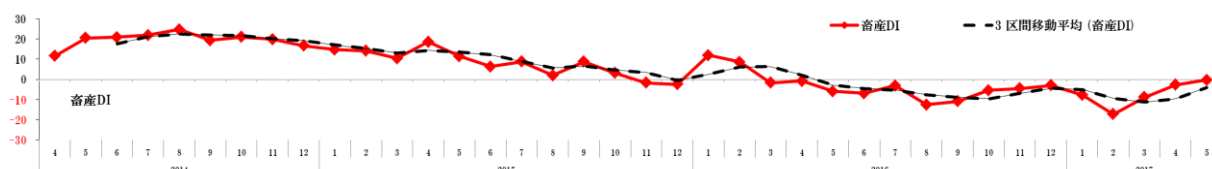
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.4	40.9	32.0	16.7	3.0	-8.3
水産（当月）	16.8	50.3	22.7	8.6	1.6	-18.0



引き続き生魚の入荷が少なく相場も高値が続くなか、カツオを中心に鮮魚だけでなく、刺身類もアニサキス報道による影響を受け不調となった。販売可能な魚種に限られるなかで、マグロ類やエビ類、うなぎなどを好調にあげる店舗がみられた。

3. 畜産DI：-0.3（やや不調）

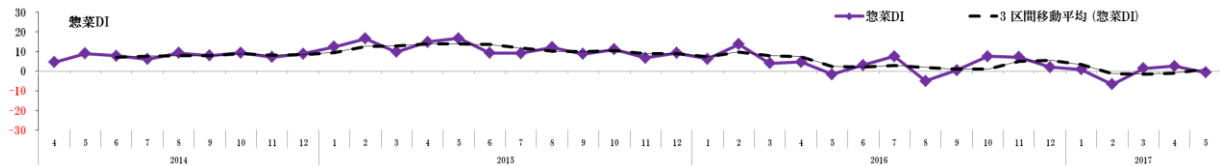
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.5	35.1	30.2	27.2	3.0	-2.7
畜産（当月）	5.9	26.9	33.3	30.1	3.8	-0.3



日曜日の売上が大きい店舗では一日少ない影響を受けたものの、鮮魚からの代替もみられ、ほぼ前年並みとなった。和牛は相場高が続く不調となるなか、相場安となっている輸入牛の売り込みが強化され好調となっている店舗が多い。牛肉は、ゴールデンウィークを中心にステーキ、焼肉需要で大容量販売が好調となったが、月後半は伸び悩んだ。豚肉は豚しゃぶ用などが好調となっており、加工肉も動きがよい。輸入鶏は引き続き不振となった。

4. 惣菜DI：-0.7（やや不調）

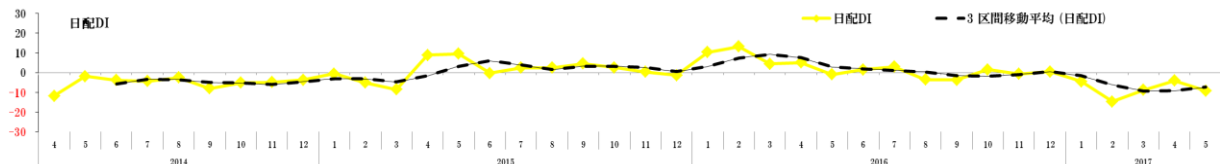
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.4	18.8	39.6	32.2	4.0	2.6
惣菜（当月）	9.7	21.6	35.1	28.6	4.9	-0.7



ゴールデンウィーク期間を中心に好天に恵まれ、行楽需要の高まりにより、日曜日が一日少ないにも関わらず、前年並みとなった。一方で子供の日や母の日向けの寿司が伸びみをみせた影響を受けたほか、気温の上昇により揚げ物の動きが悪かった。米飯類は好調な店舗が多く、涼味商材は前年との比較で伸び悩んだ店舗が多かった。

5. 日配DI：-9.2（やや不調）

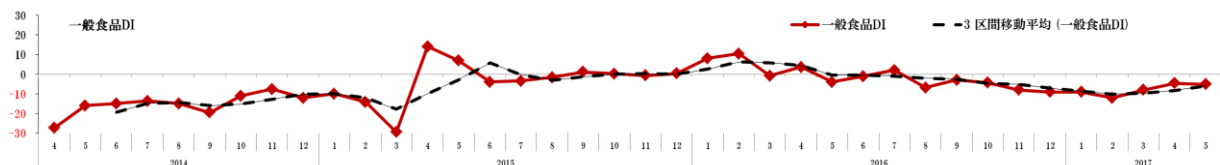
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	5.0	30.7	41.7	21.1	1.5	-4.1
日配（当月）	7.6	35.7	44.3	10.8	1.6	-9.2



曜日めぐりの影響に加え、前年との比較では気温が低く、飲料や涼味系商材を中心に伸び悩んだ。前年特需のあった機能性ヨーグルトなどが落ち込みをみせた。メディアで取り上げられた甘酒や豆乳などが引き続き好調となっている。牛乳やパン類については、好不調の判断が分かれている。

6. 一般食品DI：-5.1（やや不調）

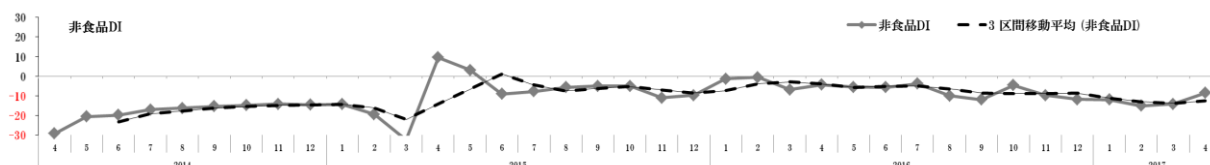
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.0	33.5	36.5	20.5	3.5	-4.5
一般食品（当月）	4.3	34.9	39.2	19.9	1.6	-5.1



雨が少なく、日中の最高気温が高かった地域では飲料や素麺が好調となったものの、前年に比べ気温の低下した地域では、伸び悩みをみせ、好不調がわかれた。引き続き、米類は好調を続けているほか、酒税法改正前の駆け込み需要により酒類は好調となった。菓子は、ポテトチップ品薄の影響が続いている。

7. 非食品 DI：-11.7（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	11.6	30.7	41.2	13.6	3.0	-8.5
非食品（当月）	13.6	33.7	40.8	9.8	2.2	-11.7



前年値上げ前特需の反動により、紙類が不調となった。前年との気温差により、殺虫剤も動きがわるい。ホームセンター、ドラッグストアなどとの価格競争が厳しく、低迷が続いており、売場の縮小などを行う店舗もみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2017 年 6 月調査（5 月実績）キーワード TOP3

1. 日曜日が一回少ない
2. 青果相場の下落
3. 好天・気温上昇（前年比では低下）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5 月実績速報版 194 社
 4 月実績確報版 213 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp